

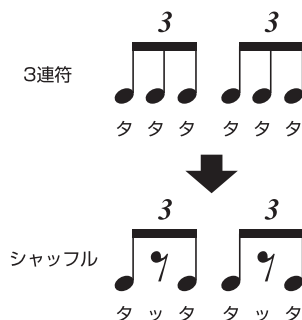
注意点1

理論

シャッフルの ピッキングを学ぼう

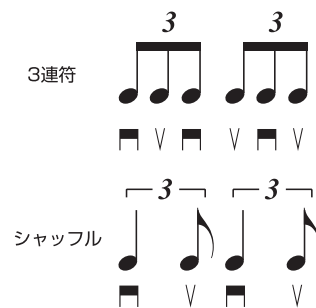
シャッフルとは、3連符の中抜きと言われるリズムのこと(図1-a)。“ジャッカ、ジャッカ”といったブルースのリズムを思い浮かべればよいだろう。このリズムで作られた曲やフレーズには、3連符の“タタタ”や“タータ”といった音符が多いので、ピッキングに注意が必要だ(図1-b)。基本的に3連符では“ダウン→アップ→ダウン”か“アップ→ダウン→アップ”を使い分け、シャッフルの“タータ”のリズムでは“ダウン→アップ”で弾くことが多いようだ。ただし、その曲のテンポやノリによって、意図的にピッキングの向きを変えることもあるので、状況によって使い分けができるようになろう。

図1-a シャッフルについて



3連符の真ん中の音を抜くことにより、ハネたリズム＝“シャッフル”となる。

図1-b シャッフル時のピッキング



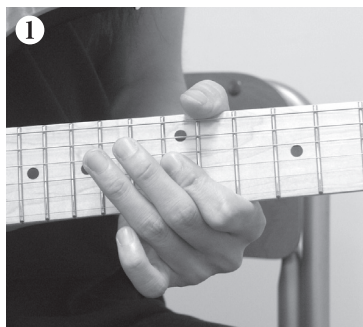
3連符とシャッフルのピッキングの比較をしてみたい。テンポや楽曲によって変わるが、基本的にシャッフルは“ダウン→アップ”で弾かれることが多い。

注意点2

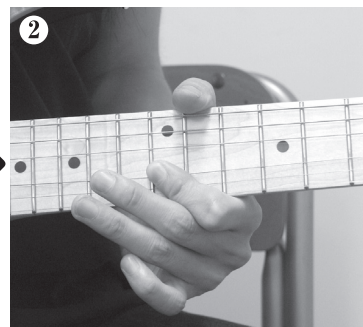
左手

ニュアンスに注意して クォーターを鳴らそう

このフレーズでは“1音半”、“半音”、“クォーター”と3種類のチョーキングが登場する。音程の違いは名前のお通りで、例えば1小節目に登場する2弦17フレット(E音)の1音半チョーキングは、17フレットより3フレット分上の20フレットの音(G音)まで音を上げれば良い。ただし、4小節目に登場するクォーター・チョーキングは、少し注意が必要だ。これは“4分の1”音という半音のさらに半分という非常に微妙な音程。弦を少し上げる感じで弾くのだが写真①&②、ハッキリ言って音程は必ずしも正確でなくても良い。しかし、フレーズの中でニュアンスに注意しながら弾くことで、とてもカッコいい仕上がりになるのだ。このチョーキングをマスターして、ギターの奥深さを感じよう。



クォーター・チョーキング前の2 & 3弦12fの押弦。人差し指1本で押さえよう。



クォーター・チョーキングの状態。音程は非常に微妙なので、フレーズの中でのニュアンスを感じながら弾いてほしい。

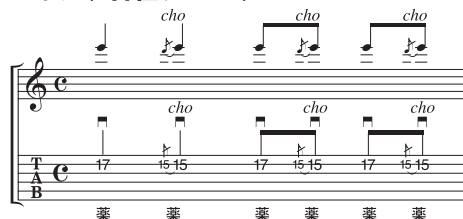
～コラム21～

地獄の戯れ言

チョーキングは、瞬時に目指す音程まで音を上げられなければいけない。ここでは、チョーキングの音程を鍛錬する練習フレーズを紹介しよう(図2)。まずチョーキングの目標の音を先に鳴らし、その音をよく聴き、その後に同じ音程になるようにチョーキングするのだ。例えば2弦15フレット(D音)を1音チョーキングする場合は、あらかじめ2弦17フレット(E音)を鳴らしてからチョーキングを行なう。これは、弾きたい音を瞬時に弾くアドリブの練習にもなるのでオススメだ。この他に、クロマティック・チューナーを使って、視覚的にチョーキングの音程をチェックする方法もあるので試してほしい。

キミはチョーキング音痴じゃないか？ ～チョーキングの音程練習法～

図2 チョーキング音程チェック



先に2弦17フレット(E音)を鳴らし、その音を目指して2弦15フレット(D音)を1音チョーキングする。